

和牛甲子園 両部門で特別賞受賞!

1月19、20日に開催された第6回和牛甲子園において、取組評価部門、枝肉評価部門それぞれで特別賞を受賞しました。

取組評価部門では、各参加校がそれぞれ1校の取組みに投票した中で、最も投票数の多い学校に贈られる「高枝肉児特別賞」を受賞しました。また、審査員の先生からの講評の中でも、「発表の話し方が良かった」などの言葉をいただき、発表練習を何度も行った成果が出た結果となりました。

枝肉評価部門では、おいしさの新基準ともいわれる脂肪酸の結果が良かったことから、「審査員特別賞」を受賞しました。どちらも賞をいただけただけで、上位入賞が叶わなかったことには悔しさが残る結果となりました。来年の第7回大会は、すでに出品予定牛の肥育を実施しているため、出場するからには上位入賞を目標とし、活動していきます。

大会中、生徒たちは名刺交換をしたり、オリジナルステッカーを配布したりと楽しむことができました。また、出品された牛の牛肉は、どちらもヤ5等級で、地元での販売になる予定です。販売日程や場所が分かり次第、学校でもお知らせしていきますので、ぜひお買い求めください。



広がる! 規格外トマトの可能性! ~うまみ成分~

以前のトマト給与試験を行った、試験区と対照区の豚肉を追加で分析しました。食べたときの旨みに違いを感じたことから、うまみ物質について、日本食品分析センターに分析依頼したところ、うまみ成分のひとつである「イノシン酸」が、試験区において高い結果となりました。また、その他アミノ酸については、多くの項目で試験区と対照区が同程度、いくつかの項目では試験区の方が含有量が多い結果となりました。実験に使用した豚は同腹産子であり、遺伝的な差が小さいことを考えると、それ以外の何かの要因があったことが推察できます。

もしこれが、規格外トマトの給与による効果であったとすれば、規格外トマトに新たな価値を見出すことができるかもしれません。現在、第3回目の給与試験の準備を進めています。調査個体数を増やし、分析を進めることで、トマト給与による効果を明らかにすることを目指していきます。カレーとしての販売だけでなく、

トマトを給与した豚肉そのものに価値を付けられるような結果が出ることを目指して、給与試験を進めます。



JGAP継続審査まであと少し!



2月9日のJGAP認証の継続審査に向けて1月29日に模擬審査を実施しました。

審査では、書類でのインタビューと、現場を確認しながらのインタビューが実施されます。どちらも動物科学部の生徒が説明をするため、これまで書類作成や、現場の確認を実施してきました。模擬審査でも指導員の先生に対する説明を生徒が行いました。事前に分担した担当範囲について、自分の言葉で説明し、現場確認では、先生方が困らないように、丁寧に案内を進めることができました。「生徒だけの審査としては、他の学校と比べてもレベルが高い」と高評をいただき、準備を進めてきた生徒の自信にも繋がりました。

模擬審査でご指摘いただいた内容を修正し、いよいよすぐ近くに迫った本審査に臨みます。少しでも当日の是正項目が少なくできると、十分に確認して進めていきます。